

令和４年度八万南小学校総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指数と活動計画	評価	学校関係者の意見	
Ⅰ 確かな学力の育成 ・聞く態度の育成 ・学習意欲の高揚 ・ICT教育の推進 ・読書活動の推進 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善 ・自分の思いや考えを伝え合う力の向上 ・家庭学習の習慣化 ・基礎・基本の徹底 ・個に応じた指導の充実	①話を黙って最後まで聞ける態度を育成する ②学ぶ楽しさやわかる喜びを感じ主体的に学習に取り組むことができる態度を育成する。「わかった」「できた」「もっとやりたい」等 ③タブレット端末等を有効活用した学習の推進を図る。 ④思考力・判断力・表現力等を育む言語活動を充実させる。 ⑤家庭学習（家庭との連携）なども含めた「学ぶ習慣づくり」を定着させる。 ⑥T・T指導等、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。 ⑦読書活動等を通して、感性を磨き、読解力・表現力・創造力を高める。	評価指数 ①自己評価「話の聞き方のルールを徹底している。」90%以上 児童アンケート「わたしは、先生や友達の話を見つめて聞いています。」85%以上 ②自己評価「子どもが主体的に学習に取り組めるような課題の設定や発問の工夫を行っている。」90%以上 児童アンケート「わたしは、授業で学習したことをよく理解している。」85%以上 保護者アンケート「学校は、学力が向上するような取り組みをしている。」80%以上 ③自己評価「タブレットを効果的に活用した実践を行っている。」90%以上 児童アンケート「タブレットをつかった学習は分かりやすい。」85%以上 ④自己評価「個人学習やグループ学習等の自分の考えを表現し合う場を設定している。」90%以上 児童アンケート「わたしは、友達の意見を聞いたり、自分の考えや意見を分かりやすく伝えたりすることができている。」85%以上 ⑤自己評価「毎日、宿題や自主学習をチェックし、最後の直しまで確認している。」90%以上 児童アンケート「わたしは、家庭学習をきちんとしている。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、家庭学習によく取り組んでいる。」80%以上 ⑥自己評価「個々の特性を理解し、指導方法の工夫を行っている。」90%以上 ⑦自己評価「読書活動の時間を確保し、読み聞かせを充実させている。」90%以上 児童アンケート「わたしは、本をよく読んでいる。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、よく本を読んでいる。」80%以上	評価指数の達成度 ①自己評価「話の聞き方のルールを徹底している。」90.0% 児童アンケート「わたしは、先生や友達の話を見つめて聞いています。」88.2% ②自己評価「子どもが主体的に学習に取り組めるような課題の設定や発問の工夫を行っている。」90.0% 児童アンケート「わたしは、授業で学習したことをよく理解している。」84.2% 保護者アンケート「学校は、学力が向上するような取り組みをしている。」82.3% ③自己評価「タブレットを効果的に活用した実践を行っている。」45.0% 児童アンケート「タブレットをつかった学習は分かりやすい。」84.1% ④自己評価「個人学習やグループ学習等の自分の考えを表現し合う場を設定している。」81.0% 児童アンケート「わたしは、友達の意見を聞いたり、自分の考えや意見を分かりやすく伝えたりすることができている。」76.6% ⑤自己評価「毎日、宿題や自主学習をチェックし、最後の直しまで確認している。」95.0% 児童アンケート「わたしは、家庭学習をきちんとしている。」80.6% 保護者アンケート「お子さんは、家庭学習によく取り組んでいる。」63.7% ⑥自己評価「個々の特性を理解し、指導方法の工夫を行っている。」90.0% ⑦自己評価「読書活動の時間を確保し、読み聞かせを充実させている。」73.7%以上 児童アンケート「わたしは、本をよく読んでいる。」69.5% 保護者アンケート「お子さんは、よく本を読んでいる。」39.6%	総合評定 (評定) <div style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</div>	○故障するタブレットが多く、学習に支障を来す児童がいると聞く。予備機も各学校への配布が少ないと聞いた。タブレット学習の充実（GIGAスクール構想の実現）を目指すなら、迅速なメンテナンスや学校規模に応じた予備機の配布等を教育委員会にしっかり要望してほしい。 （○この総括評価表の達成率について、指標との比較だけでなく、昨年度のデータもあれば児童の変容がよく分かる。担当の先生の負担になるのであれば、全項目でなくても、特に重要な項目だけでも昨年度との比較ができるようにしてほしい。） ・話の聞き方のルールは概ね実践できているが、話し手を意識して聞いていない児童がいる。話し手の方を向いたり、反応したり（うなずきや相づち）して聞くことができるようにする。 ・学習内容の理解が難しくなってくると、個々の課題把握や指導方法の工夫がより必要になってくる。 ・児童はタブレットを使った学習に意欲的であるが、効果的な活用ができるように、ICTのスキルアップについて学校全体で研究し共有していく必要がある。 ・ペアワークやグループ学習を多く取り入れ、自分の考えを表現する機会を多くとれるようにする。 ・子どもが意欲的に家庭学習を行うことができるような取り組みを行うとともに、家庭への啓発をこまめに行う必要がある。 ・個々の特性にあった指導方法の工夫を、継続して行っていく。 ・学校では読書をしていても、家庭でのゲームやタブレットの時間が減ってきている。
		活動計画 ①聞き方のモデルを示し、ルールを徹底する。 ②各授業における課題設定(めあて)や発問を工夫する。 ③効果的なタブレットの活用についての研修の実施と系統的な学びを実践する。 ④根拠や理由を明らかにしながら自分の考えを書いたり、表現したりする場面を設定する。 ⑤家庭学習の手引きに加え、学習の進め方のモデルや文例の提示等を行い、自主的・効果的な学びを推進する。 ⑥合理的配慮の実践等、個に応じたきめ細やかな指導を工夫する。	活動計画の実施状況 ①聞き方のモデルを示し、ルールの徹底に取り組んでおり、概ね定着してきている。 ②各授業における課題設定の工夫を行い、児童が主体的に学習に取り組めるよう取り組んでいる。しかし、家庭学習につながる学力向上の取り組みについて課題がある。 ③効果的なタブレットの活用について研修の実施を行ってきたが、授業の中で効果的なタブレット活用、系統的な学びの実践には教師間で差がある。 ④様々な学習形態を工夫し、自分の考えを表現する場面の設定に取り組んでいる。しかし、分かりやすく伝えたりすることには課題がある。 ⑤各学年の実態に合わせて、家庭学習の進め方やモデルの提示を行っているが、家庭との連携については課題がある。 ⑥合理的な配慮について研修を実施、教職員間で連携を図りながら指導の工夫に取り組んでいる。	（所見） ①については、話の聞き方のルールは概ね身につけているため、さらに徹底できるようにする。 ②については、主体的に学習に取り組めるように工夫しているが、授業の理解については差があるのが現状である。 ③については、児童はタブレットをつかった学習に意欲的に取り組んでいるが、効果的な活用や実践について課題がある。 ④については、様々な学習形態での表現のし合う場面の設定についてより工夫が必要である。 ⑤については、家庭学習や宿題について、家庭学習の意欲の低さから、より工夫した啓発が必要である。 ⑥については、個々の特性に合った指導方法の工夫を概ね進めることができる。 ⑦については、読書時間の確保や読み聞かせについて、より充実させる必要がある。	

		⑦読書への意欲付けを意識した読書活動や読み聞かせを実施する。	⑦朝の活動時間や図書室の利用時間を設け、読書時間を確保した。低学年では読み聞かせの充実を図った。また委員会を中心に「読書郵便」等を実施し、読書啓発を行った。			
<p>2 豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ撲滅のため早期発見・早期対応 人権教育・道徳教育の推進 自尊感情や自己肯定感を高める学級経営 自他の生命を大切にす態度の育成 互いを認め合い支え合う仲間づくり 根気と忍耐力の育成 	<p>①いじめ撲滅のための早期発見・早期対応を心がける。</p> <p>②すべての教科等で人権感覚を磨き、人権尊重の精神を涵養する。</p> <p>③「特別の教科道徳」の時間をはじめ、すべての教科等で道徳教育を展開し、よりよく生きていくための資質・能力を培う。</p> <p>④自尊感情や自己肯定感、自己有用感を高める学級経営を推進する。</p> <p>⑤自他の生命を大切にす態度を育成する。</p> <p>⑥人の長所に目を向け、互いを認め合い、支え合う仲間作りを継続的に行う。</p> <p>⑦何事にも最後までやりとげる掃除や当番・委員会活動、ボランティア活動等、根気と忍耐力を培う。</p>	<p>評価指標</p> <p>①自己評価「日ごろの児童観察を大切にし、児童の些細な変化に気づき、対応している。」90%以上 児童アンケート「わたしは、困ったことがあれば、すぐに友達や先生に相談できる。」85%以上 保護者アンケート「学校は、いじめ等困ったことがあればすぐに対応してくれる。」80%以上</p> <p>②-1自己評価「全教育活動において、人権教育の推進に努めている。」90%以上 児童アンケート「わたしは、相手のことを考えて行動できる。」85%以上 児童アンケート「わたしは、困っている人に声をかけたり、助けたりしている。」85%以上 児童アンケート「私が困っているときに、助けてくれる友達がいる。」85%以上 児童アンケート「わたしは、友達に「ありがとう」と素直に言える。」85%以上 児童アンケート「わたしは、友達に「ごめんね」と素直にあやまることができる。」85%以上 保護者アンケート「学校は、一人一人の人権を大切にしながら、教育活動を進めている。」80%以上 保護者アンケート「お子さんは、「ありがとう」「ごめんなさい」と素直に言える。」80%以上</p> <p>②-2自己評価「学年で協力して授業を考え、統一した授業ができていく。」90%以上</p> <p>③自己評価「道徳の年間計画にそって学年で足並みをそろえて道徳教育を進めることができている。」90%以上 児童アンケート「道徳の授業で、先生や友達の話をよく聞いている。」85%以上 児童アンケート「道徳の授業で勉強したことをいかせている。」85%以上 児童アンケート「道徳の授業で、自分の意見を発表している。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、手伝いをよくしている。」80%以上 保護者アンケート「お子さんは、相手の気持ちを考えた行動ができる。」80%以上</p> <p>④-1自己評価「子どもたちの自尊感情、自己肯定感、自己有用感を高める場を設定している。」90%以上 児童アンケート「自分にはよいところがある。」85%以上 児童アンケート「自分のことがすきである。」85%以上 児童アンケート「おうちの人から褒められる。」85%以上 保護者アンケート「お子さんを認めている。」80%以上 保護者アンケート「お子さんをよく褒めている。」80%以上</p> <p>④-2自己評価「児童をよくほめている。」90%以上 児童アンケート「先生や大人から褒められる。」85%以上</p>	<p>評価指数の達成度</p> <p>①自己評価「日ごろの児童観察を大切にし、児童の些細な変化に気づき、対応している。」90.5% 児童アンケート「わたしは、困ったことがあれば、すぐに友達や先生に相談できる。」77.6% 保護者アンケート「学校は、いじめ等困ったことがあればすぐに対応してくれる。」79.5%</p> <p>②-1自己評価「全教育活動において、人権教育の推進に努めている。」95.2% 児童アンケート「わたしは、相手のことを考えて行動できる。」84.4% 児童アンケート「わたしは、困っている人に声をかけたり、助けたりしている。」89.5% 児童アンケート「私が困っているときに、助けてくれる友達がいる。」95.2% 児童アンケート「わたしは、友達に「ありがとう」と素直に言える。」95.3% 児童アンケート「わたしは、友達に「ごめんね」と素直にあやまることができる。」90.7% 保護者アンケート「学校は、一人一人の人権を大切にしながら、教育活動を進めている。」87.9% 保護者アンケート「お子さんは、「ありがとう」「ごめんなさい」と素直に言える。」87.5%</p> <p>②-2自己評価「学年で協力して授業を考え、統一した授業ができていく。」95.2%</p> <p>③自己評価「道徳の年間計画にそって学年で足並みをそろえて道徳教育を進めることができている。」90.0% 児童アンケート「道徳の授業で、先生や友達の話をよく聞いている。」90.0% 児童アンケート「道徳の授業で勉強したことをいかせている。」80.2% 児童アンケート「道徳の授業で、自分の意見を発表している。」75.1% 保護者アンケート「お子さんは、手伝いをよくしている。」74.6% 保護者アンケート「お子さんは、相手の気持ちを考えた行動ができる。」88.5%</p> <p>④-1自己評価「子どもたちの自尊感情、自己肯定感、自己有用感を高める場を設定している。」90.5% 児童アンケート「自分にはよいところがある。」84.7% 児童アンケート「自分のことがすきである。」74.8% 児童アンケート「おうちの人から褒められる。」80.9% 保護者アンケート「お子さんを認めている。」97.0% 保護者アンケート「お子さんをよく褒めている。」86.7%</p> <p>④-2自己評価「児童をよくほめている。」95.2% 児童アンケート「先生や大人から褒められる。」86.9%</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>①については、取組を継続し、今後も、児童や保護者と人間関係を築き、何でも相談できる関係作りが大切である。</p> <p>②については、今後の人権教育充実のために計画の見直しが必要である。</p> <p>③については、児童が学習したことを実践できていないように感じる。行動に移せる力を身に付けさせる必要がある。</p> <p>④については、学校だけのこととせず、家庭にも呼びかける必要がある。</p> <p>⑤については、年間計画を見直し、学年に合った内容の学習が必要である。</p> <p>⑥については、今後も継続して行う必要がある。</p> <p>⑦については、少しずつ、児童が自ら考え行動する様子が見えてきたが、まだ十分ではない。引き続き、継続して取り組んでいく必要がある。また、研修等で情報交換を行い、学校全体で取り組めるよう工夫する。</p>	<p>○いじめ問題等、学校で何かあったのなら、学校と家庭がしっかりと連携しながら解決に向けて努力してほしい。</p> <p>○今年度は、朝、学校まで見送る保護者が多い。どうしてか？</p> <p>○遅く、ポツンと登校する児童がいる。登校時間をもっと明確にし、早く来るように指導するべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童と関わる機会を増やし、いち早く異変に気付く。そして、問題が発生したときは、教職員、保護者、関係機関等、連携しながら対応する。 人権尊重の精神をすべての教科等で尊重できるように意識していく。 道徳の時間、考えたことや思ったことを生活に実践する力を高められるようにしていく。 引き続き、児童の自尊感情、自己肯定感、自己有用感を高められるような場を設定し、声かけをし、励ますようにする。 体験的な活動を通して、命を大切にする態度の育成を目指す。 引き続き取組を行っていく。また、研修等で取り上げ、学校全体でも情報共有を行う。 委員会活動等を生かし児童が主体となって取り組める方法を考えていく。

		<p>⑤自己評価「学年の年間計画として命の授業を計画して、取り組むことができた。」90%以上 児童アンケート「学校では、様々な命を大切にすることを教えてくれる。」85%以上</p> <p>⑥自己評価「児童が互いを認め合い、支え合う仲間づくりの活動を行っている。」90%以上 児童アンケート「わたしは、友達のよいところや素敵などを見つけている。」85%以上 児童アンケート「わたしには、自分のよいところや素敵などを知ってくれている友達がいる。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、友達と協力し、他人を思いやる心が育ってきている。」80%以上</p> <p>⑦-1自己評価「清掃活動やボランティア活動等に主体的に取り組む児童が増えている。」90%以上 児童アンケート「掃除を時間いっぱい取り組むことができる。」85%以上 児童アンケート「当番・委員会活動等、自分の役割に責任をもって取り組んでいる。」85%以上 児童アンケート「ボランティア活動等自分から進んで行動できる。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、何事にも最後まで根気強く取り組んでいる。」80%以上</p> <p>⑦-2自己評価「教師自らが清掃活動に取り組み、手本となっている。」90%以上</p> <p>⑦-3自己評価「他クラス、他学年と活動の工夫について情報交換を行っている。」90%以上</p>	<p>⑤自己評価「学年の年間計画として命の授業を計画して、取り組むことができた。」75.0% 児童アンケート「学校では、様々な命を大切にすることを教えてくれる。」93.3%</p> <p>⑥自己評価「児童が互いを認め合い、支え合う仲間づくりの活動を行っている。」95.2% 児童アンケート「わたしは、友達のよいところや素敵などを見つけている。」90.2% 児童アンケート「わたしには、自分のよいところや素敵などを知ってくれている友達がいます。」87.0% 保護者アンケート「お子さんは、友達と協力し、他人を思いやる心が育ってきている。」93.6%</p> <p>⑦-1自己評価「清掃活動やボランティア活動等に主体的に取り組む児童が増えている。」95.2% 児童アンケート「掃除を時間いっぱい取り組むことができる。」88.4% 児童アンケート「当番・委員会活動等、自分の役割に責任をもって取り組んでいる。」86.8% 児童アンケート「ボランティア活動等自分から進んで行動できる。」80.7% 保護者アンケート「お子さんは、何事にも最後まで根気強く取り組んでいる。」74.1%</p> <p>⑦-2自己評価「教師自らが清掃活動に取り組み、手本となっている。」95.2%</p> <p>⑦-3自己評価「他クラス、他学年と活動の工夫について情報交換を行っている。」81.0%</p>			
		<p>活動計画</p> <p>①年に2回アンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。</p> <p>②各学年の人権教育担当の教員中心に、人権教育年間計画にそった人権教育を進める。</p> <p>③各学年の道徳教育担当教員中心に、道徳の年間計画にそった道徳教育を進める。</p> <p>④集団の中で、「任せる、褒める、認める」ような場を設定する。また、活動を振り返る場も設定する。</p> <p>⑤各学年で「生命」の授業を実施し、生命を尊重する心を養う。</p> <p>⑥学年実態に応じた仲間作りの活動を設定している。</p> <p>⑦清掃活動や当番等の意義を知らせる。また、教師自らが行って見せたり、仕方を工夫して教えたりする。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①アンケートを実施し、いじめを早期発見し、対応することを心がけている。会議を開き、情報の共通理解も図ることができた。</p> <p>②各学年の人権教育担当教員を中心に人権教育を進めることができた。</p> <p>③各学年の道徳教育担当教員を中心に道徳教育を進めることができた。</p> <p>④児童の自尊感情、自己肯定感、自己有用感、を高める場、振り返る場を設定している。また、教員が褒めることを意識して児童と接するようになっている。</p> <p>⑤命の授業を計画し、取り組むことがあまりできなかった。</p> <p>⑥児童が互いに認め合い、支え合う仲間作りが行える場を各学級が工夫して設けることができた。</p> <p>⑦高学年がボランティアを毎日行い、その様子が学校全体へと広がっている。また、委員会「ゼロゼロの日」をつくり、ゴミゼロ、おしゃべりゼロで清掃活動が行えるように工夫して。少しずつ、児童が自ら考え行動する様子が見えてきた。</p>			
<p>3 健康な心と体の育成</p> <p>・体力の向上</p> <p>・基本的な生活習慣の確立</p>	<p>①運動の楽しさや面白さを感じることでできる体育授業を工夫する。</p> <p>②外遊びや徒歩通学を積極的に奨励する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①自己評価「各学年の発育発達段階の特性と各運動量域の教材について理解が深まるように自己研修を行っている。」90%以上 児童アンケート「体育の授業では楽しく体を動かしている。」85%以上 児童アンケート「体育の授業では自分のめあて</p>	<p>評価指数の達成度</p> <p>①自己評価「各学年の発育発達段階の特性と各運動量域の教材について理解が深まるように自己研修を行っている。」85.7% 児童アンケート「体育の授業では楽しく体を動かしている。」90.7% 児童アンケート「体育の授業では自分のめあて</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①については、アンケートでは、体</p>	<p>○給食の残食に関して、最近では家庭での和食メニューが減っているのも原因ではないか？特に煮物を作る家は減っているだろうから、そういうメニューの給食の時は残食が多いのでは。</p>	<p>・来年度も引き続き、個々のめあてを設定し、楽しく体育の授業に取り組むことができるような指導のための研修を行う。</p> <p>・外遊びに意欲がもてるような活動や声かけを行ったり、</p>

- ・家庭と連携した食育の推進
- ・充実感や達成感の体感

- ③体育的行事への積極的な参加を呼びかける。
- ④学校給食を中心に食育を推進し、健康の保持推進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。
- ⑤「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底、生活習慣の育成を図る。
- ⑥仲間と協力することの大切さや汗を流して働くことのすばらしさを学び、最後までやり遂げる充実感や達成感を体感させる。

にあった学習をしている。」85%以上
保護者アンケート「お父さんは、体育の授業が好きである。」80%以上
保護者アンケート「お父さんは、運動することが好きである。」80%以上

②-1自己評価「外遊びをするように啓発している。」90%以上
児童アンケート「わたしは、外遊びをしている。」85%以上
保護者アンケート「お父さんは、外で遊んでいる。」80%以上

②-2自己評価「徒歩通学ができるように啓発している。」90%以上
児童アンケート「わたしは、徒歩で通学している。」85%以上
保護者アンケート「お父さんは、徒歩通学している。」80%以上

③自己評価「体育的行事への参加を呼びかけている。」90%以上

④-1自己評価「給食を教材として活用し、食に対する感謝の気持ちを育てている。」90%以上

④-2自己評価「食育動画教材や食育タイムを活用し、食に関する指導の工夫をしている。」90%以上
児童アンケート「わたしは、食べ物や給食を支えている人に感謝して、好きなものも苦手なものも食べることができている。」85%以上
保護者アンケート「お父さんは好き嫌いせず食べ物や給食を支えている人に感謝して食事をすることができている。」80%以上

⑤-1自己評価「「早寝・早起き」をするように啓発をしている。」90%以上
児童アンケート「わたしは、早寝早起きをしている。」85%以上
保護者アンケート「お父さんは、基本的な生活習慣が身につけている。」80%以上

⑤-2自己評価「「朝ご飯」を食べるように啓発をしている。」90%以上
児童アンケート「わたしは、朝ごはんを食べている。」85%以上

⑥自己評価「当番や係等の仕事を行う場を設定し、最後までやり遂げられるよう、指導の工夫をしている。」90%以上
児童アンケート「わたしは、学校をよくするために、自分からすすんで働いている。」85%以上
保護者アンケート「お父さんは、お手伝いをしている。」80%以上

活動計画

- ①各運動領域の教材研究を行い、学年の発達段階に応じた体育授業の実践を行うためにメンター制をいかした研修を適宜行う。
- ②コロナ対策を講じながら、積極的に外遊びができるように声をかける。同様に徒歩通学ができるよう呼びかける。
- ③体育の授業で積極的に取り組んでいる児童を中心に体育的行事への参加を促す。
- ④児童の健康な心身の育成のため、生きた教材を生かした食に関する指導の充実を図る。食べ物を大事にし、感謝して食事ができるようにする。

にあった学習をしている。」90.7%
保護者アンケート「お父さんは、体育の授業が好きである。」82.3%
保護者アンケート「お父さんは、運動することが好きである。」79.5%

②-1自己評価「外遊びをするように啓発している。」75.0%
児童アンケート「わたしは、外遊びをしている。」82.6%
保護者アンケート「お父さんは、外で遊んでいる。」69.1%

②-2自己評価「徒歩通学ができるように啓発している。」80.0%
児童アンケート「わたしは、徒歩で通学している。」85.6%
保護者アンケート「お父さんは、徒歩通学している。」91.4%

③自己評価「体育的行事への参加を呼びかけている。」65.0%

④-1自己評価「給食を教材として活用し、食に対する感謝の気持ちを育てている。」73.7%

④-2自己評価「食育動画教材や食育タイムを活用し、食に関する指導の工夫をしている。」73.7%
児童アンケート「わたしは、食べ物や給食を支えている人に感謝して、好きなものも苦手なものも食べることができている。」74.6%
保護者アンケート「お父さんは好き嫌いせず、食べ物や作ってくれた人に感謝して食事をすることができている。」76.1%

⑤-1自己評価「「早寝・早起き」をするように啓発をしている。」76.2%
児童アンケート「わたしは、早寝早起きをしている。」77.6%
保護者アンケート「お父さんは、基本的な生活習慣が身につけている。」88.3%

⑤-2自己評価「「朝ご飯」を食べるように啓発をしている。」85.7%
児童アンケート「わたしは、朝ごはんを食べている。」92.3%

⑥自己評価「当番や係等の仕事を行う場を設定し、最後までやり遂げられるよう、指導の工夫をしている。」95.0%
児童アンケート「わたしは、学校をよくするために、自分からすすんで働いている。」79.0%
保護者アンケート「お父さんは、お手伝いをしている。」74.6%

活動計画の実施状況

- ①発育発達段階の特性と各運動領域の教材について理解が深まるよう自己研修を行ったりメンター研修を行ったりすることができた。
- ②コロナ対策を講じながらの外遊びや徒歩通学の啓発を行うことができた。
- ③体育の授業に積極的な児童を中心に体育的行事への参加を促し、様々な行事に参加することができた。
- ④食育動画教材や食育タイムなど活用することができた。

育の授業が好きな児童は評価指標を上回る結果となっている。

②については、外遊びの啓発が十分ではなかったことやコロナ感染防止対策のため、外遊びに制限があったりしたことがアンケートの結果に出ているようだ。分散による外遊びだったため、時間の確保が十分ではなかった。

③については、前年度よりも体育行事が増え、参加する機会は増えたが、参加児童は集まりにくく、参加不参加が二極化している。

④については、コロナ禍の中、感染防止対策のため黙食での給食時間ということもあり指導が至らなかった面がある。今後の課題として校内の食育推進委員会等で共通理解を図り、引き続き取り組んでいく。完食を目指して残さず食べる児童が増えた。ただ、あまりたくさん食べられない児童もいるため、給食指導ができない場面も多かった。

⑤については、アンケートの結果から「早寝早起き朝ごはん」の啓発が十分とは言えず、児童アンケートにもそれが反映された結果となっている。しかし、「朝ごはんを食べる」ことに関しては、きちんと食べてきている児童が大半であることが分かる。

⑥については、今年度より無言清掃の日を設けるなど、係・当番の仕事を行う場の設定や指導の工夫をしっかり行っており、きちんとできている児童も多く見られるが、アン

コロナ感染防止対策を行いつつも、時間や場所の確保に務める。
・体育的行事の周知を徹底し、参加を呼びかけたり壮行会などで参加児童の活躍の場を設定する必要がある。
・引き続きコロナ感染防止対策に配慮しながら給食指導を行う。栄養教諭が中心となって、啓発を続けていく必要がある。
・無言清掃の日を引き続き設定し、今後は普段の清掃でも無言で清掃することができるようにしていく。

		<p>⑤保健の学習や生活アンケートを行うなど、「早寝早起き朝ごはん」の意識づけを図る。睡眠と食事の重要性について、教職員で共通理解を図る。</p> <p>⑥「ゴミ^{ゼロ}0声^{ゼロ}0」の「0 0そうじの日」を設け、集中して無言清掃に取り組み、最後までやり遂げられるようにする。</p>	<p>⑤学期始めの生活リズムの崩れやすい頃や保健の授業などの機会を生かして「早寝早起き朝ごはん」の啓発を行うことができた。</p> <p>⑥保健委員会を中心に呼びかけを行い、毎月「10日、20日、30日」は学校全体で無言清掃に取り組み、集中して清掃に取り組むことができた。</p>	<p>ケート結果からは児童の自己評価は低く出ている。無言清掃を行うようになり、一生懸命活動する姿が見られるようになった。</p>	
<p>4個に応じた特別支援教育と生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規律や規範意識の高揚 ・積極的に組織的な児童理解の推進 ・一人一人の実態に応じた指導の工夫 ・子どもたちの長所の伸長 ・校内支援委員会及び支援体制の充実 ・教職員の研修 ・保護者への啓発 	<p>①子どもたちが学校で仲間とともに生き生きと楽しく学べるよう支援する。</p> <p>②積極的で組織的な児童理解を推進する。</p> <p>③規律や規範意識（あいさつ・言葉遣い・無言清掃等）の高揚に努める。</p> <p>④一人一人のニーズに応じた指導支援をさらに工夫する。</p> <p>⑤特別支援学級と交流学級との連携を密にして子どもの居場所を確保する。</p> <p>⑥特別支援教育コーディネーターを中心に、校内体制のさらなる整備をすすめる。また、関係機関等との連携や保護者への啓発等も積極的に図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①自己評価「児童の特性に応じた効果的な方法を検討し、実践している。」90%以上 児童アンケート「学校生活が楽しくなるように、先生がいろいろと考えてくれている。」85%以上 保護者アンケート「学校は子どもたちの特性に合わせた教材を使い指導をしている。」80%以上</p> <p>②自己評価「必要に応じて教職員間で連絡や相談をし、児童理解に努めている。」90%以上 児童アンケート「いろいろな先生から、よくほめてもらえる。」85%以上 保護者アンケート「学校は全体で子どもたちの指導にあたっている。」80%以上</p> <p>③自己評価「児童の手本となるように教師が率先して、挨拶や清掃活動を行っている。」90%以上 児童アンケート「友だちや先生といつも元気なあいさつができています。」85%以上 保護者アンケート「学校は元気な挨拶をしたり、きまりを守ったりすることをきちんと指導している。」80%以上</p> <p>④自己評価「児童の実態を捉え、個に応じた指導方法を工夫している。」90%以上 児童アンケート「先生は分かりやすい方法で、勉強を教えてくれる。」85%以上 保護者アンケート「学校は子どもや家族の願いを学校での指導に生かしている。」80%以上</p> <p>⑤自己評価「交流学級と支援学級の担任間で、効果的に情報交換をしている。」90%以上 児童アンケート「なかよし学級や交流学級で、みんながなかよく勉強している。」85%以上 保護者アンケート「学校は社会の中では、いろいろな立場の人が生活していることを子どもたちに学ばせている。」80%以上</p> <p>⑥-1自己評価「特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーと連携して指導している。」90%以上</p> <p>⑥-2自己評価「外部機関とも積極的に相談し、保護者となぐ役割を果たす。」90%以上 児童アンケート「困ったときは、いろいろな先生に相談して、問題を解決している。」85%以上 保護者アンケート「子どもに関する相談をしたり、各種の相談機関に相談したりするための情報を発信している。」80%以上</p> <p>活動計画</p> <p>①一人一人の特性に応じて学習方法を選び、指導方法を工夫する。</p> <p>②定期的に児童に関する情報交換の機会を設け、共通理解を図る。</p> <p>③場に応じた挨拶や言葉遣いを身につけ、ルールを守る態度を育てるよう教師が手本を示す。</p>	<p>評価指数の達成度</p> <p>①自己評価「児童の特性に応じた効果的な方法を検討し、実践している。」95.0% 児童アンケート「学校生活が楽しくなるように、先生がいろいろと考えてくれている。」94.0% 保護者アンケート「学校は子どもたちの特性に合わせた教材を使い指導をしている。」81.8%</p> <p>②自己評価「必要に応じて教職員間で連絡や相談をし、児童理解に努めている。」95.0% 児童アンケート「いろいろな先生から、よくほめてもらえる。」76.2% 保護者アンケート「学校は全体で子どもたちの指導にあたっている。」84.6%</p> <p>③自己評価「児童の手本となるように教師が率先して、挨拶や清掃活動を行っている。」90.5% 児童アンケート「友だちや先生といつも元気なあいさつができています。」88.4% 保護者アンケート「学校は元気な挨拶をしたり、きまりを守ったりすることをきちんと指導している。」91.9%</p> <p>④自己評価「児童の実態を捉え、個に応じた指導方法を工夫している。」94.7% 児童アンケート「先生は分かりやすい方法で、勉強を教えてくれる。」93.3% 保護者アンケート「学校は子どもや家族の願いを学校での指導に生かしている。」79.7%</p> <p>⑤自己評価「交流学級と支援学級の担任間で、効果的に情報交換をしている。」84.2% 児童アンケート「なかよし学級や交流学級で、みんながなかよく勉強している。」88.2% 保護者アンケート「学校は社会の中では、いろいろな立場の人が生活していることを子どもたちに学ばせている。」84.6%</p> <p>⑥-1自己評価「特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーと連携して指導している。」85.0%</p> <p>⑥-2自己評価「外部機関とも積極的に相談し、保護者となぐ役割を果たす。」68.4% 児童アンケート「困ったときは、いろいろな先生に相談して、問題を解決している。」81.6% 保護者アンケート「子どもに関する相談をしたり、各種の相談機関に相談したりするための情報を発信している。」82.3%</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①児童の特性に応じて適切な学習方法を工夫し、理解度を深めることができた。</p> <p>②交流授業や専科の授業で、児童の学びについて良かった点や課題を教職員間で共有できた。</p> <p>③教師が率先して挨拶や適切な言葉遣いをし、児童に手本を示した。また、ルールを守らないと</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①については、児童の特性に応じた効果的な指導方法について各教員が教材や指導方法を工夫し、児童が楽しく学べる支援の達成度は目標を上回ることができた。</p> <p>②については、教職員間で連携し、児童理解を深めながら組織的な指導を進めた。児童は称賛されることで、一層意欲が向上してきた。</p> <p>③については、児童会によるあいさつ運動での呼びかけで、元気な挨拶ができる児童の割合が10ポイント以上増えた。</p> <p>④については、児童の実態を把握し、教材教具の工夫や分かりやすい説明方法を取り入れた授業を展開した。</p> <p>⑤については、教職員間で児童や授業に関する情報交換をし、必要な連絡や相談を行った。</p> <p>⑥については、保護者に関しては外部相談機関につなぐことができたが、教師への啓発活動は不十分だった。</p>	<p>○学校はどのような関係機関と連携し、特別支援に関わる相談等を行っているのか？また、相談件数は年々増えているのか？</p> <p>○性被害に遭わないようにするために、性犯罪につながる行為をしないようにするためにも、昔ながらの性教育のままではなく、時代に合った性教育の実践を望む。教員が全てを抱え込むのではなく、専門家など、外部機関・外部講師の協力を求めてもいいのでは。児童の指導でもいいし、保護者向けの講演会でもいい。保護者も話を聞く機会があれば、親として子どもへの伝え方のヒントを知ることができてありがたい。</p> <p>・来年度は、保護者への様々な啓発を行っていききたい。</p>

		<p>④児童や保護者の願いを受け止めながら指導計画を立て、実践を進める。</p> <p>⑤効果的な連携方法を工夫し、児童の成長を多面的に見守り指導する。</p> <p>⑥教育相談を有効に活用し、不適応等の軽減を図る。また、外部機関と連携し、児童や保護者のもつ課題の解決を図る。</p>	<p>大勢が困ること伝えてルールの遵守を促した。</p> <p>④児童の状況を見ながら保護者と共に指導計画を立て、実践に取り組んだ。</p> <p>⑤児童の問題行動等について教職員間で連携し、役割を分担しながら行動の改善を図った。</p> <p>⑥スクールカウンセラーや外部機関と連絡を取り合い、必要な指導助言を受けた。保護者に有用な支援や相談に関する情報提供を行った。</p>			
<p>5 保護者・地域から信頼される学校</p> <p>・教育活動の公開や情報発信の積極的な推進</p> <p>・地域に根ざした教育活動の推進</p> <p>・子どもの安全安心確保と健全育成等の推進</p>	<p>①「学年だより」「学校だより」やマチコミ・HP等を通じて、学校の情報を積極的に発信する。</p> <p>②地域の「人・もの・こと」を活用する。</p> <p>③登下校の安全の見守りや防犯対策等、子どもたちの安心安全を第一に考えた取組を推進する。</p> <p>④避難訓練や安全点検・安全指導を適宜実施し、防災教育・安全教育の徹底を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①自己評価「学級の子どもの成長やがんばりの様子を保護者へ伝えている。」90%以上 保護者アンケート「学校でのお子さんの様子を知っている。」80%以上</p> <p>②自己評価「地域の施設やゲストティチャーの活用をした。」90%以上</p> <p>③自己評価「登下校時、交通のルールを守ったり、あいさつをしたりするように指導できた。」90%以上 児童アンケート「登下校時、交通のルールを守ったり、あいさつをしたりできた。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、交通ルールを守って登下校をしている。」80%以上</p> <p>④自己評価「災害時の避難の仕方についての確に指導できた。」90%以上 児童アンケート「素早く、安全に避難する方法を知っている」85%以上。 保護者アンケート「お子さんは、学校で自然災害が起こったときに、どのように避難したらよいか理解している。」80%以上</p>	<p>評価指数の達成度</p> <p>①自己評価「学級の子どもの成長やがんばりの様子を保護者へ伝えている。」90.0% 保護者アンケート「学校でのお子さんの様子を知っている。」71.6%</p> <p>②自己評価「地域の施設やゲストティチャーの活用をした。」80.0%</p> <p>③自己評価「登下校時、交通のルールを守ったり、あいさつをしたりするように指導できた。」95.0% 児童アンケート「登下校時、交通のルールを守ったり、あいさつをしたりできた。」92.0% 保護者アンケート「お子さんは、交通ルールを守って登下校をしている。」95.4%</p> <p>④自己評価「災害時の避難の仕方についての確に指導できた。」95.0% 児童アンケート「素早く、安全に避難する方法を知っている」86.9%。 保護者アンケート「お子さんは、学校で自然災害が起こったときに、どのように避難したらよいか理解している。」79.7%</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①については、HPの更新頻度を上げ、地域や保護者へ発信出来るようにしていきたい。「学校だより」「学年だより」については、来年度も継続していく。</p> <p>②については、コロナ感染症等の発生状況をみながら、来年度も継続していく。</p> <p>③④については、来年度も今年度同様に継続していく。</p>	<p>○地域の自主防災組織と連携し、学校（児童）と防災組織合同の、地域に根ざした防災訓練をしてほしい。学校の負担を軽減するためにも、PTA行事として夏休み等に行う方法もある。</p> <p>・コロナ感染症等の発生状況をみながら、オープンスクール等の行事ができるように考えていきたい。</p> <p>・HPの更新頻度を上げ、地域や保護者へ発信出来るようにしていきたい。</p> <p>・災害時の避難訓練等については、保護者や地域と連携を図れるようにしていきたい。</p>	
		<p>活動計画</p> <p>①「学年だより」で保護者に学年の様子や必要な情報を発信する。 ・マチコミを使って、必要な情報を発信する。 ・「学校だより」やHP等を通じて、学校の情報を保護者や地域の人に発信する。</p> <p>②学習内容に応じて施設やゲストティチャーを有効に活用する。</p> <p>③毎月の「学校安全の日」の交通指導において、安全な登校の指導を行い、その様子を記録にまとめておく。</p> <p>④避難訓練を適宜実施したり、安全点検・安全指導を毎月1回実施したりする。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①「学年だより」「学校だより」は、月初めに出し、生活の注意点、持ち物の確認、行事の報告、学習の状況等の情報を保護者に発信している。HPの活用は、十分ではなかった。</p> <p>②教科の担当が特別教室を活用しやすいように整理した。また、必要に応じて文化の森を活用したり、ゲストティチャーを招いたりした。</p> <p>③毎月の「学校安全の日」の交通指導において、安全な登校の指導を行い、その様子を記録にまとめ、必要に応じて共通理解することができた。</p> <p>④避難訓練を適宜実施し、災害時の安全な行動を確認した。また、安全点検・安全指導を毎月1回実施した。</p>			
<p>6 研修の充実と協働体制の強化</p> <p>・未来を見据えた広い視野の教育活動</p> <p>・教職員の力量形成</p> <p>・「チーム八南」で、補完・協働し合う体制の継続</p>	<p>①一人一台タブレットを効果的に活用した授業づくりを工夫する。</p> <p>②職務研修（ミドルリーダー研・フレッシュ研Ⅰ・Ⅱ）、学校訪問、メンター制等の研修を効果的に活用し、教職員のさらなる授業力の向上を図る。</p> <p>③「チーム八南」で、補完・協働</p>	<p>評価指標</p> <p>①自己評価「タブレットの効果的な活用方法を考え、授業をしている。」90%以上</p> <p>②自己評価「主体的に研修に参加し、実践に生かしている。」90%以上</p> <p>③自己評価「必要な情報を共有することができたか。」90%以上</p> <p>④自己評価「自分の時間」「ゆとりの時間」を創</p>	<p>評価指数の達成度</p> <p>①自己評価「タブレットの効果的な活用方法を考え、授業をしている。」65.0%</p> <p>②自己評価「主体的に研修に参加し、実践に生かしている。」80.0%</p> <p>③自己評価「必要な情報を共有することができたか。」90.0%</p> <p>④自己評価「自分の時間」「ゆとりの時間」を創</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①については、校内研修や研究授業の柱としてタブレット学習の効果的な</p>	<p>・本年度に引き続きメンター研修を実施し、教職員同士の学びが深まるようにする。</p> <p>○教職員のICTの研修について、タブレットを使うことを目的とした授業ではなく、タブレットを有効活用しながら行う授業の研修を進めてほしい。</p> <p>○教職員は研修を行う時間を十分とれているのか？（働き方改革の観点から。）</p>	

<p>・ワークライフバランスを考えた超過勤務時間の改善</p>	<p>し合う体制を継続させ、組織での対応に努める。 「報告・連絡・相談・確認」</p> <p>④ワークライフバランスを考え、健康で楽しい働き方を工夫する。</p>	<p>造できたか。」90%以上</p>	<p>造できたか。」70.0%</p>	<p>活用を掲げ、実践していったことを来年度も継続していく。</p> <p>②については、メンター制の内容を充実させるとともに、研修やOJTなども通じて実践力の向上を図っていく。</p> <p>③については、引き続き風通しのよい職場環境作りを目指す。</p> <p>④については、業務内容の見直しを図りながら、自分時間・ゆとり時間の創造をしていく。</p>	
		<p>活動計画</p> <p>①校内研修、学年会等の時間を利用して、学年で効果的にタブレットが活用できる授業計画を立て、実践する。</p> <p>②メンター、メンティーとして、主体的に研修に参加する。 ・研修で得たことを実践に生かす。</p> <p>③学年主任、管理職、各担当主任等と必要な情報の共有を行う。 「報告・連絡・相談・確認」</p> <p>④全教職員がやりがいをもって笑顔で子どもと向き合うため、「自分の時間」「ゆとりの時間」を創造する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①校内研修でMetamojiの基本的な活用方法を学んだり、学年ごとの実践事例をデータに残したりと、少しずつ活用の幅を広げている。しかし、タブレットを『効果的に』活用する授業については、まだまだ試行錯誤中である。</p> <p>②ミドルリーダーの先生方を中心に、研究授業やメンター研修を取り入れてもらったことで、学びの機会が増えた。</p> <p>③学年内や学年間での報告や相談、生徒指導担当やコーディネーターの先生との連携を意識しながら教育活動に取り組むことができた。経験の浅い先生方も、何かあったら学年主任や管理職に相談する意識が定着してきている。</p> <p>④多忙な中で、どうしても遅くなってしまうこともあるが、できる限り早く退勤できるように工夫や声かけをし、ゆとりの時間がもてるようにしている。</p>		

「評価」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった